科目名称：	保育教材演習（幼児教育学科）	
担当者名：	村上　知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1

授業の目的・テーマ

時代に関係なく子どもはお話を聞いたり、ペプサート、紙芝居、パネルシアター、人形劇などを見ることが大好きである。このような保育教材が長く支持されているのは、どれも手法がシンプルで分かりやすく、幼児のリズムにあっているからであり、保育者と触れ合いながら安心して楽しめるのも理由の一つである。楽しい保育は幼児の心を動かし、豊かな感性を育む。そのような保育教材を演習することは、保育技術を向上させ、自分の自信にもつながる。授業では楽しい保育を展開するうえで役に立つ「パネルシアター」を中心に教材を製作し、表現の基礎を学ぶ。

授業の達成目標・到達目標

授業を通して作り方、演じ方の基礎を学び、保育の現場で幅広く実践、活用出来るように、主体的、計画的に製作に取り組む。また、製作、演じ方の練習を通して、パネルシアター等の面白さ楽しさを実感し、意欲を持って取り組む。また、オリジナルの作品を製作することも目標としている。

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)			40	60	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》保育士	《経験年数１》8ヶ月
	《内容２》幼稚園教諭	《経験年数２》20年
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
製作（色塗り）	細部まで、丁寧に塗られている。また、色彩も美しい。	細部まで、丁寧に塗られている。または、色彩が美しい。	ほぼ、丁寧に色が塗られている。	塗り残し等がある。
製作（作品の仕上がり）	はさみの切り方、仕掛け等、細部まで、丁寧に作られている。	全体的に丁寧に作られている。	ほぼ、丁寧に仕上がっている。	仕上がってない箇所がある。
発表方法（話の内容を覚え、絵人形を動かす）	話の内容を理解し、内容に合わせて絵人形を適切に動かしている。	おおよそ話の内容を覚え、絵人形を動かしている。	ほぼ話の内容を覚えている。	話の内容を覚えていない箇所がある。
発表方法（発表全体）	表情や抑揚を適切につけ、話の内容に合わせて絵人形を動かしている。	話の内容に合わせて、おおよそ、表情や抑揚をつけ、絵人形を動かしている。	ほぼ、話の内容に合わせて、絵人形を動かしている。	話の内容に合わせて、絵人形を動かせない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　パネルシアター作成の基礎知識を学ぶ（ICT使用）	パネルシアターの本を見て、作成したい作品を3作品選択しておく。	60分
第２回　パネルシアターを3作品製作する	作成したい作品の型紙をパネル版のサイズにあうサイズに拡大コピーしておく。	30分
第３回　パネルシアターを3作品製作する	期限内で作品を製作するために、計画を立てる。	30分
第４回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第５回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第６回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第７回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第８回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第９回　パネルシアターを3作品製作する	計画に基づき、不足している分を補っておく。	30分
第10回　パネルシアターを3作品製作する	作品全体を確認し、仕上げておく。	30分
第11回　パネル版と台を作成する	パネル版と台の作成プリントを確認してくる。	30分
第12回　パネルシアターを発表する(プレゼンテーション)	発表の練習をしてくる。	30分
第13回　パネルシアターを発表する(プレゼンテーション)	発表の練習をしてくる。	30分
第14回　パネルシアターを発表する(プレゼンテーション)	どのように発表をすると良いかを考え練習してくる。	40分
第15回　パネルシアターを発表する(プレゼンテーション)	どのように発表をすると良いかを考え練習してくる。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 実施しない。　　その他の評価配分は、以下のとおりである。
作品の提出４０％　ルーブリックにより発表を評価４０％　授業への積極的関与２０％

課題に対してのフィードバック

発表や作品をルーブリックで評価し、返却する。

教科書・参考書

必要に応じてプリントを配付する。